

ホンモロコの産卵状況と水位維持の必要性

臼杵 崇広

◆背景・目的

水位操作に伴う水位の低下がホンモロコの産卵や卵の干出に与える影響を明らかにし、水位操作の改善について提言を行う。

◆成果の内容・特徴

- 湖北町海老江および西浅井町岩熊において平成18年4月7日から7月28日まで週に1回の頻度でホンモロコの産卵状況を調査し、産着卵数と7日後までの水位ごとの卵の干出状況を推測した(図1)。
- 産着卵が確認されたのは湖北町では5月5日から7月7日まで、西浅井町では5月19日から6月23日までと前年より遅く、冬季からの低水温が影響していると考えられた。産卵のピークはそれぞれ5月下旬から6月初めと6月上旬であった。
- 調査水域における総産着卵は湖北町で約80.5万粒、西浅井町で約10.9万粒と推定された。
- 湖北町では28.1%、西浅井町では41.0%の卵が確実に干出したと推定された。
- 産卵期間中の水位を維持すれば生残する卵の割合は湖北町、西浅井町でそれぞれ26.5%、8.8%であったものが61.4%、58.6%まで高まると考えられた。

◆成果の活用・留意点

ホンモロコの初期減耗を低減させるためには、産卵期間中の水位を少なくとも維持する必要がある、水位を上昇させる水位操作の可能性についても検討する必要がある。

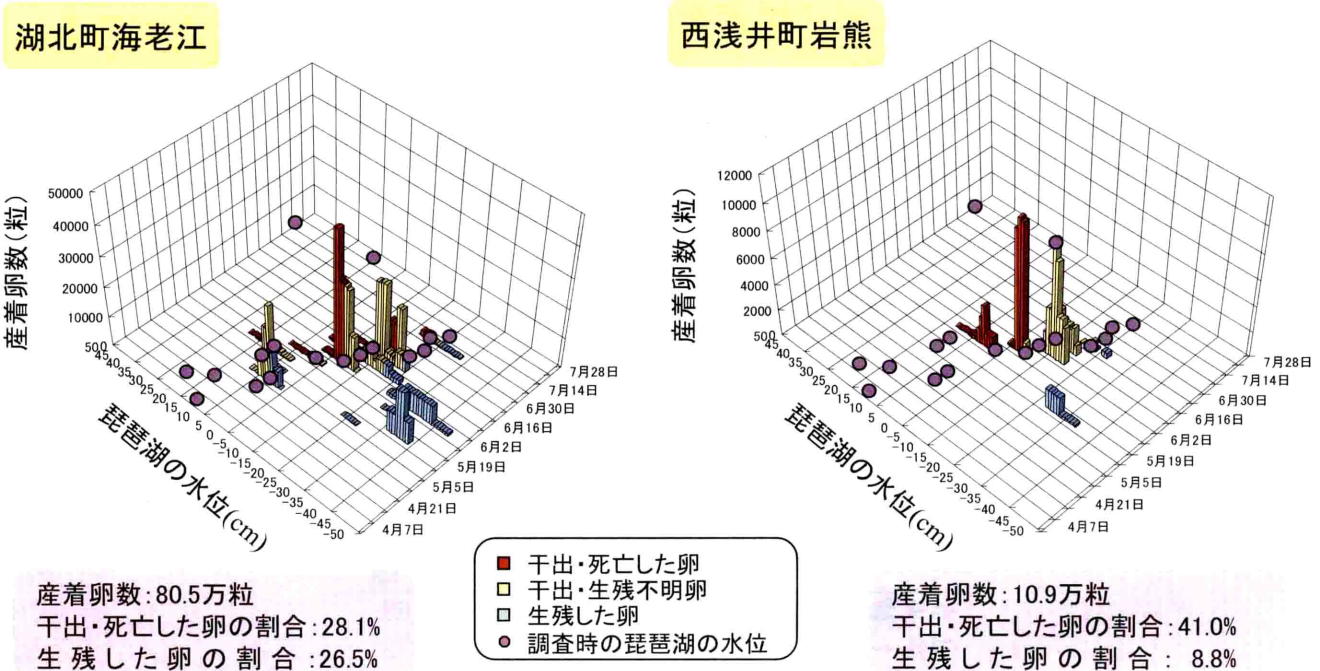


図1 ホンモロコの水位ごとの産卵状況と卵の干出状況。